

百合茂産子雌牛肥育の場合、肥育期間を延長することでモモ肉の脂肪交雑が向上する					
<p>[要約]</p> <p>百合茂産子雌牛肥育の場合、肥育期間を24ヶ月まで延長することで、モモ肉の脂肪交雑が向上する。一方、豊茂国産子雌牛の場合、19ヶ月肥育でもモモ肉の脂肪交雑が期待できる。</p>					
上場営農センター・研究部 畜産・果樹研究担当				連絡先	0955-82-1930 uwabaeinousenta@pref.saga.lg.jp
部会名	上場営農	専門	畜産	対象	肥育牛

#### [背景・ねらい]

枝肉の評価はロース肉の脂肪交雑に依存しているが、枝肉価格が伸び悩む中、部分肉の肉質も枝肉単価を決定する大きな要因になっている。しかし、部分肉のうち最も重量のあるモモ肉は脂肪交雑が少なく、生産者にとって課題となっている。

そこで、一般的にモモ肉の脂肪交雑が良いとされている「百合茂」「豊茂国」産子雌牛を用いて、肥育期間を延長することでモモ肉の脂肪交雑を向上させる。

#### [成果の内容・特徴]

- 百合茂産子は肥育期間を24ヶ月とすることで、BMSは5.5から7.8に向上し、モモ肉の脂肪交雑も良好となる(表1,図1)。さらに、枝肉重量、ロース芯面積、ばら厚も向上することで枝肉価格は約79千円増加する(表3)。この場合、1頭あたりの飼料費は約70千円増加する(表2)。以上のことから、百合茂産子は肥育期間延長により、モモ肉の脂肪交雑の向上および収益の向上を図ることができる。
- 豊茂国産子は肥育期間を延長してもBMSやモモ肉の脂肪交雑は向上しない(表1,図1)。しかし、枝肉重量が向上することで枝肉価格は約87千円増加する(表3)。この場合、飼料費は約70千円増加する(表2)。一方、19ヶ月肥育でもモモ肉の脂肪交雑が良好な個体もある(図1)。以上のことから、豊茂国産子では肥育期間は慣行の19ヶ月で十分である。

#### [成果の活用面・留意点]

- 本成果情報は試験当時の濃厚飼料価格で計算したものであり、濃厚飼料価格が60円/kgまで上昇した場合は、本試験の経済効果を期待できないこともある。

[具体的データ]

表1 血統及び肥育期間と枝肉成績の関係<sup>1)</sup>

	肥育 期間	枝肉 重量 (kg)	BMS	ロース芯 面積 (cm <sup>2</sup> )	皮下 脂肪厚 (cm)	ばら厚 (cm)	きめ 締まり	枝肉 単価 (kg/円)
百合茂産子雌牛	19ヶ月	493.3	5.5	57.7	3.0	8.1	3.7	1,416
	24ヶ月	543.8	7.8	74.8	3.7	9.5	4.3	1,525
豊茂国産子雌牛	19ヶ月	516.5	6.8	64.8	3.2	8.8	4.2	1,647
	24ヶ月	556.5	6.0	69.6	3.8	9.2	3.6	1,710

1) 百合茂産子は 2011 年 2 月, 豊茂国産子は 2011 年 11 月から 19 および 24 ヶ月肥育

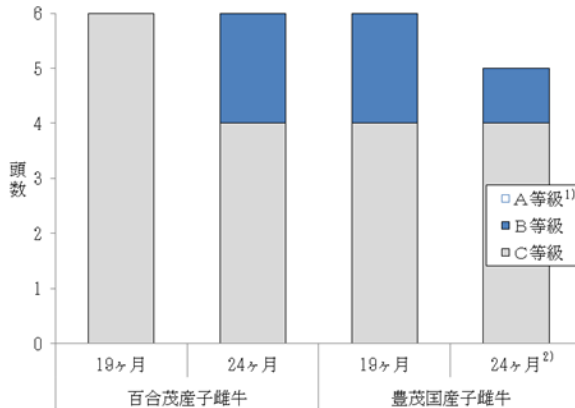


図1 肥育月齢の違いがモモ肉の脂肪交雑に与える影響

- 1) モモ肉の脂肪交雑は JA さが担当者による格付け (C<B<A)
- 2) 豊茂国産子 24 ヶ月肥育のうち, 1 頭は肥育 12 ヶ月齢時に蹄葉炎のため試験中止



B 等級



C 等級

図2 モモ肉の脂肪交雑の状態

表2 血統の違いと 1 頭あたり飼料費の関係

	飼料費 <sup>1)</sup>		計
	0~19ヶ月	19~24ヶ月	
百合茂産子	285,955	70,147	356,143
豊茂国産子	288,284	70,819	359,103

1) 濃厚飼料 55 円/kg, 稲わら 40 円/kg, ヘキューブ<sup>®</sup> 80 円/kg として計算

表3 1 頭あたり枝肉価格増加額の推定

	19~24ヶ月 間の増体		枝肉 増加量 (kg)	枝肉単価 <sup>1)</sup> (円/kg)	枝肉価格 増加額 (円)	収益 <sup>2)</sup> (円)
	(kg)	歩留 (%)				
百合茂産子	62	67	41.5	1,900	78,850	8,703
豊茂国産子	65	67	43.6	2,000	87,200	16,381

1) 各試験牛出荷年次の大阪市場における A4 ランクの価格

2) (枝肉価格増加額) - (19~24ヶ月間の飼料費)

[その他]

研究課題名 : 黒毛和種における良質モモ肉生産技術の確立

予算区分 : 県単

研究期間 : 2011~2013 年度

研究担当者 : 古川智博, 山口正洋 (上場営農セ)

共同研究機関 :